

IGARSS2011(地球科学・リモートセンシング国際シンポジウム)で越村准教授が報告しました(2011/7/28)

IGARSS(アイガース)は IEEE Geoscience and Remote Sensing Society (GRSS:地球科学およびリモートセンシング部会)が1年に1回開催する国際会議です。会議の主たるテーマは地球環境に関する技術、応用であり、宇宙から地球を観測するリモートセンシング技術、地球内部を計測する技術、また地球環境情報を統合する 情報処理ならびに地理情報システム(GIS)の開発や応用などが対象です。今年は、仙台市開催の予定でしたが、震災の影響により急遽カナダ・バンクーバーでの開催に変更されました。

越村准教授は、シンポジウムの一環で、7月28日に東日本大震災に関する特別講演会と一般市民を対象とした Public Lecture で基調講演を行いました。Public Lecture においては、約120名の参加者となり、東北地方太平洋沖地震・津波災害に関する研究報告に加え、今後カナダ・ブリティッシュコロンビア州で地震や津波が起こる可能性やその対策についても話題提供を行いました。講演の題目は下記の通りです：

■2011年東日本大震災特別セッション

“Identifying the impact of the 2011 Tohoku tsunami disaster : Remote sensing and ground truth” , Shunichi Koshimura, Hideomi Gokon, Takumi Fukuoka (Tohoku University)

■Public Lecture

“The 2011 Tohoku Earthquake Tsunami Disaster: Its Impact and Lessons” , Shunichi Koshimura (Tohoku University)



バンクーバー・コンベンションセンターで、東北地方太平洋沖地震・津波災害について研究発表および基調講演を行いました(写真提供：バンクーバー新報)。